

## 四輪車のスーパーカブを目指して。

センタータンクレイアウトという画期的なパッケージング技術を核に、Hondaが、スモールカーに革新をもたらしたのは2001年のことでした。驚くほどの広さと低燃費、そして、クラスを超えた存在感を兼ね備えたフィットは、2代目にしてその価値をさらに高め、また、ハイブリッド車をはじめとする多くのラインアップを展開することで、日本国内のみならず世界中の人々に支持されてきました。現在、国内累計販売台数は203万台<sup>※1</sup>、世界では123カ国487万台<sup>※1</sup>に上ります。

3代目フィットの開発にあたり、最初に思い描いたのは、四輪車のスーパーカブのような存在に育てたいということでした。スーパーカブは1958年の発売以来、延べ160カ国以上で販売され、シリーズとしての世界生産累計8,350万台<sup>※2</sup>を超える、世界的ロングセラー商品です。歴代フィットが具現化してきた、「広さ」、「燃費」、「かっこよさ」というクルマとしての普遍的価値を圧倒的に進化させることで、スーパーカブのように、人々の身近で暮らしを支え、お客様の毎日に喜びをもたらす、世界のベーシックカーを創造したいと考えました。

そのために、センタータンクレイアウトを高効率かつ高性能に実現するプラットフォームや、国内最高<sup>※3</sup>の低燃費とFUNな走りを両立するパワートレインなど、すべてを刷新。Hondaの先進技術を惜しみなく投入することで、世界のベーシックカーにふさわしいNewフィットを完成させることができたと確信しています。

※1 2013年6月現在。 ※2 2013年3月現在。 ※3 2013年8月現在。ガソリン乗用車(プラグインハイブリッド車を除く)。Honda調べ。



小西 真 (こにし まこと)  
(株)本田技術研究所 主任研究員

1982年、(株)本田技術研究所入社。  
ドア設計PLなどを経て、  
2004年エディックスのLPL代行を担当。  
その後、MMCモデルのLPLを数多く歴任し、  
2009年4代目ステップワゴンのLPLを担当。  
今回、3代目フィットのLPLを務める。  
趣味は読書、音楽鑑賞。  
愛車はステップワゴン。